



「スワンネット」を視察する高知県医療情報  
通信技術連絡協議会の関係者ら

## 「スワンネット」視察

高知の医療関係者ら 道外から初

室 蘭

高知県の医療関係者らが15日、室蘭市医師会（野尻秀一会長）などが運営する「地域医療介護ネットワーク」を視察した。道外からの視察は初。一行は具体的な活用例をはじめ、データ管理や安全面などにも関心を寄せていた。

来蘭したのは、同県医療情報通信技術連絡協議会の町田尚敬事務局長と三島匠子さん、高知医療センター情報システム室の北村和之さん。同県では「地域医療介護連携ネットワークシステム（高知県版EHR）」の今年10月1日稼働開始（予定）に向け、現在は公

募型プロポーザルを行っている。県内関係機関らへの説明なども控える中、先進事例に理解を深めるため、視察に訪れた。

このうち、室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院では、地域医療連携室の鈴木正信室長が、急性期病院での活用法や地域医療での役割などを説明。一行は、検査画像の読影レポートや医療診療記録（サマリ）などの情報共有面、検査画像の読み込みや患者検索などの機能面、住民参加率を高めるための効果的な方策などについて、積極的に質問を寄せていた。

同県では①地域連携から地域統合へ②標準化されたシステムの導入③データを分散せず一元管理―などを進めた「EHR構築を目指している」という。町田事務局長は「診察する医師が、自院の電子カルテを見ながら（スワンネットの患者情報）直接、別の画面で見れる機能は便利」などと話していた。

一行は、なの花薬局港北店（港北町）、いくた内科クリニック（同）も視察。調剤薬局や診療所のスワンネット活用にも理解を深めていた。（松岡秀宜）